

” 再生 “ に向けて



3月23日は今治市にとって、忘れることのできない一日となりました。約481ヘクタールの山林が焼失した林野火災。

「大きく燃え広がる炎が、 目の前に迫っていた」

そう語る住民の声が、今も強く印象に残っています。延べ7,085人の消防団員や、自衛隊、各地からの応援協力隊等による懸命な消火活動により、4月14日に鎮火を迎えました。ただ失われた風景は、すぐに元に戻るものではありません。

「過去には戻れなくても、 未来はつくることできる」

その思いを胸に、山の再生に向けた植樹が始まっています。

あの日を

より強い地域防災の構築へ。

令和7年3月23日に発生した林野火災は、焼損面積約481ヘクタール、避難指示は最大で約6,000人に及ぶなど、本市にとって過去に例のない大規模災害となりました。発生から鎮火まで23日間を要し、周辺住民の皆さまをはじめ多くの方々にはご不便とご心配をおかけしました。

消防本部では、この火災における一連の対応を検証した結果、関係機関との情報共有や指揮命令系統の整理など、連携の難しさが課題として明らかとなりました。また、当時は乾燥注意報が発令される中、強風の影響により延焼が急速に拡大し、「飛び火」によって離れた場所にも火災が発生するなど、林野火災特有の脅威と消火活動の困難さを改めて痛感しました。

こうした教訓を踏まえ、住宅地への延焼防止を図るための水の幕をつくる放水資機材の整備をはじめ、ドローンやデジタル機器の活用による情報収集・共有体制の強化に取り組んでいます。また、消防本部と消防団の連携強化に加え、広

域応援を円滑に受け入れる体制や出動体制の見直しなど、総合的な消火体制の強化を進めています。

さらに、飛び火への警戒を一層徹底するとともに、林野火災を想定した実践的な訓練を継続し、どのような状況においても迅速かつ的確に対応できる体制の構築に努めてまいります。

市民の生命、身体及び財産を守ることが私たち消防の使命です。大規模火災を二度と発生させないとの強い決意のもと、「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域防災の力を市民の皆さまとともに高めながら、林野火災予防の推進に全力で取り組んでまいります。



今治市消防長
新田 康雄

忘れない

令和7年3月23日

■林野火災覚知 今治市災害警戒本部設置

令和7年3月31日

■林野火災鎮圧

令和7年4月14日

■林野火災鎮火

令和7年5月

■「令和7年今治市林野火災復旧・復興計画策定検討会」立ち上げ

令和7年11月

■「市民と共に未来へつなぐ森づくり」を基本理念とする
「令和7年今治市林野火災復旧・復興計画書」を策定

- 治山復旧等を実施する「森林復旧ゾーン」
 - 市民やボランティアによる植樹を行う「森づくりゾーン」
 - 自然の回復力を生かす「自然回復ゾーン」
 - 平成20年発生 笠松山山林火災の再復旧を進める「笠松山ゾーン」
- 4つのエリアを設定し、それぞれに応じた取り組みをはじめ

令和8年3月12日

■ボランティア記念植樹とし、ヤマザクラやウバメガシなど苗木を植栽

令和8年5月17日

■「全国植樹祭」が愛媛県で開催。今治サテライト会場にて関係者によるプランター植樹を実施し、育てた苗木を今秋に被災地へ植え替え(予定)

二度と大規模林野火災を発生させない

～強い決意を胸に～

1. 林野火災注意報・警報

運用開始!

令和8年1月1日から「林野火災注意報・警報」の運用を開始しました。発令中は、指定された区域でのたき火・火入れ・野焼きなど、屋外での火の使用が制限されます。



■問合先

消防本部 予防課

TEL 0898-32-6666(代)



「林野火災注意報・警報」の運用について



▲ドローンによる映像伝送訓練



▲ボランティア記念植樹における火災予防啓発活動



2. 「3・23」を

風化させない!

令和8年3月23日は林野火災からちょうど1年。消防本部と消防団は、被災地となった桜井・朝倉地区をはじめ、市内各地で防火巡回広報を行いました。あの火災を、私たちは忘れません。



▲消防本部と消防団の連携強化



3. 自分たちの地域は

自分たちで守る!

各自治会ごとに「火災警戒リーダー」を選任し、地域の見守り体制を強化しています。消防では、各地区の店舗などで防火広報も行っています。

令和7年今治市林野火災の発生から1年。復興への願いを込めて、記念植樹が行われました。当日は、朝倉地区の住民や地元の小中学生など約350人が参加し、ヤマザクラやコナラなど7種類、計1,350本の苗木を一本一本丁寧に植えました。市民と共に歩む森づくりが、未来へつながる確かな一歩となりました。



自然保護支援・山田クラブ会長
にたか
渡辺 二孝さん

「目の前には見慣れていない風景が。唖然とした」自宅から山を見ていましたが、日に日に炎が広がり、想像を超える被害となりました。今回の火災で山は大きなダメージを受けました。もともと花こう岩の地質で、植物が育ちにくく、根が張らない、豊かな土壌になりにくかった山でもあります。場所によって燃え方も異なり、現在は地面が不安定な状態です。

今も土壌の流出が怖いですね。少しの雨でも崩れるおそれがあり、回復には長い年月がかかるといわれています。そのため、この土地に合った木を植え、根を張らせることが先決です。

山田クラブは希少動植物の保護や湿地を守る活動を行っています。そうした経験から、「自然とは何かをこの機会に考えて、行動をすること」が大切だと考えています。登山道以外を歩かないことも大事なことです。今の山は“やけど”のような状態で、静かに見守ることも再生につながります。

少しずつ芽吹きも見られる中で、自然のサイクルの中で豊かな森に戻ってほしいです。





今治市消防団
朝倉方面隊 渡辺 じんさん

私は主に車両の機関員として活動し、継続した放水ができるよう心掛けました。「何としても火を消す」という思いで、皆が一丸となって活動。消防団員として10年以上経ちますが、これほど大規模な火災は初めてで、不眠不休の厳しい状況が続きました。

今回の活動を通して、連携や役割分担などに課題も見え、無線連絡の徹底や水利の確認など、改めて見直すきっかけとなりました。植樹も始まり、再び緑豊かな森になることを願っています。



朝倉小学校6年生 秋山 しおん 司穂さん

家から山の様子を見ていました。炎がどんどん広がっていくのが見えて不安な気持ちになりました。焼けた山を見ると今でも寂しくなります。一日でも早く緑が戻ってほしいです。

3月12日の植樹イベントでは、ヤマザクラなどを7本くらい植えました。みんなで協力して木を植えることができ、とても楽しかったです。

5月17日の全国植樹祭では苗木の贈呈で代表として参加するので、しっかり役目を果たしたいです。

第76回 全国植樹祭えひめ2026

5月17日(日)に第76回全国植樹祭えひめ2026が60年ぶりに愛媛県で開催されます。本会場の愛媛県総合運動公園(松山市)で行われる式典では、天皇皇后両陛下の御臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者を迎え、記念植樹などが行われます。

また、招待者のみならず、多くの県民に大会を身近に感じてもらうため、県内5カ所に各市町の特色を生かしたサテライト会場を設置し、式典映像の中継やワークショップ、各種ブースを出展します。今治市でもイオンモール今治新都市きらめきコートにサテライト会場とし、さまざまな催しで大会を盛り上げます。詳しくは折り込みチラシを確認ください。



全国植樹祭
ホームページ

